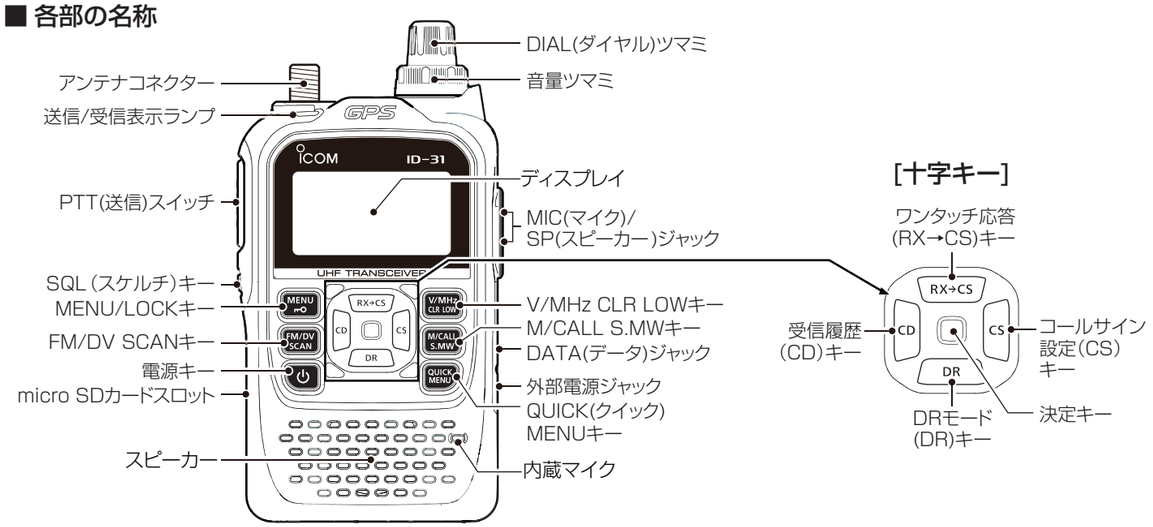
ID-31

D-STAR操作ガイド

[DRモード]

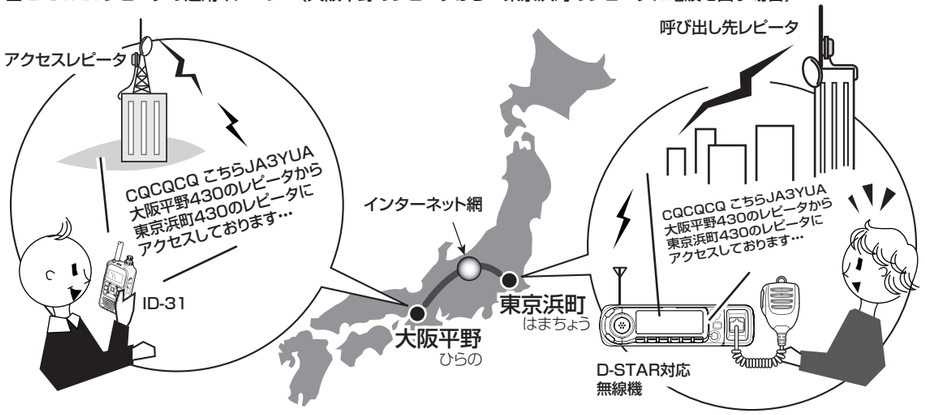
DR（D-STAR® REPEATER）モードとは、D-STARシステムの通信経路設定を簡単にお使いいただくための操作モードです。
レピーター運用をはじめ、シンプレックス運用にも対応しています。

■ 各部の名称



本書は、あらかじめ自局のコールサインがJARLのD-STAR管理サーバーに登録*されていて、プリセットされたレピータリストを使用する場合を例に説明しています。
*D-STAR管理サーバーへの登録については別紙の「D-STAR管理サーバー登録について」をご覧ください。

■ D-STAR レピータの運用イメージ　（大阪平野のレピータから　東京浜町のレピータに電波を出す場合）



D-STARで使う用語

D-STAR：
JARLが提唱するアマチュア無線のデジタル方式の名称

エリア：
1つのD-STARレピータがカバーする通信範囲

ゲートウェイ局：
インターネットに接続しているD-STARレピータ

山掛け：
1つのレピータだけを使う中継通信

エリアCQ：
異なるレピータエリアを、CQで呼び出すこと

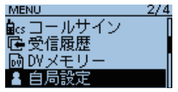
自分が使うレピータや、そのゲートウェイ局がわからない場合は、下記のサイトでご確認ください。
● JARL　レピータ開設状況：　http://www.jarl.or.jp/　　● ICOM　レピータ情報：　http://www.icom.co.jp/d-starsite/

自局のコールサインを登録/設定する

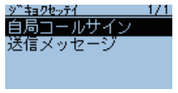
自局のコールサインは「MY1～MY6」の6CHまで登録できます。
自局コールサインには、8文字以内のコールサインと、「/」(スラッシュ)のうしろに4文字以内の任意のメモ(名前やリグ名、移動運用先など)を登録します。
《例》"MY1"にJA3YUA /ID31を登録する

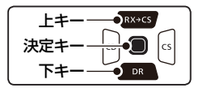
1. 自局コールサインチャンネルを選択し、編集モードに入る

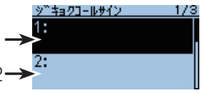
① MENUを押します。
※MENU画面に入ります。



② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、
の操作を繰り返して
「自局設定」→「自局コールサイン」を選択します。
● **「ジキョクコールサイン」**画面を表示します。

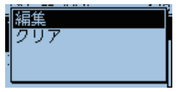






③ **上下キー**でコールサインチャンネル**"1："**(MY1)を選択します。

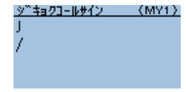
④ (QUICK MENU)を押して、**上下キー**で**"編集"**を選択し、**決定キー**を押します。
※編集モードに入ります。



ご注意
自局コールサインの8文字以内(「/」(スラッシュ)の前)は、JARLのD-STAR管理サーバーに登録したコールサインと識別符号の有無も含めて一致している必要があります。

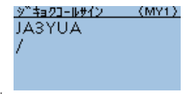
2. 自局コールサインを編集する（編集モード）

⑤ **[DIAL]**を回し、1桁目の文字を選択します。(例 J)
● 入力できる文字は、英数字(A～Z、0～9)と「/」です。
● **[CLR]**(V/MHz CLR LOW)を押すと、選択した文字を削除できます。
● (CS)を押すとスペースを入力できます。(間に入れたい場合は**[DIAL]**で選択)



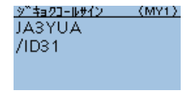
⑥ (CD)または(CS)を押してカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。

⑦ 手順⑤、⑥を繰り返し、8文字以内(スペース含む)で自局のコールサインを入力します。
(例 2桁目：A、3桁目：3、4桁目：Y、
5桁目：U、6桁目：A)
● メモを入力するときは、手順⑧に進みます。
● メモを入力せずに、コールサインの登録を完了するときは、手順⑩に進んでください。

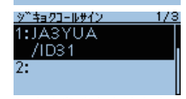


⑧ (CS)を押してカーソルを「/」の右側に移動します。

⑨ 手順⑤、⑥を繰り返し、4文字以内(スペース含む)でメモを入力します。
(例「/」の右側の1桁目～4桁目：ID31)



⑩ **決定キー**を押して、入力した自局のコールサインを登録します。



⑪ **決定キー**を押して、運用に使うコールサインチャンネルを確定させます。
● 確定時は「ピピッ」と鳴ります。

⑫ **[MENU]**(MENU)を押すと、MENU画面を解除します。

レピータからの通信を受信して、聞こえてきた局に応答するには

自分が使うレピータを設定する

《例》"FROM"に浜町430を設定する
① (DR)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(DRモードを選択する)
② **上下キー**で**"FROM"**を選択し、決定キーを押します。
③ **上下キー**で**"レピータリスト"**を選択し、決定キーを押します。
④ **上下キー**で**"01:関東"**を選択し、決定キーを押します。
⑤ **上下キー**で**"浜町430"**を選択し、決定キーを押します。

DRモードの画面

※レピータを名前で選択するだけで、そのレピータのコールサイン、周波数、デュプレックス設定、オフセット周波数が自動で設定されます。
※説明に使用しているレピータリストは、お客様の無線機にプリセットされた内容と異なる場合がありますのでご了承ください。

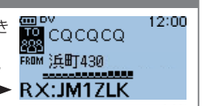
聞こえてきた局に応答する (ワンタッチ応答)

(RX→CS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、聞こえてきた局のコールサインを簡単に設定できます。

1. 受信した相手を設定する

※DRモードのどの選択画面からでも応答できます。

「JM1ZLK」からの呼び出しを受信した場合



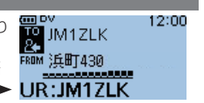
(RX→CS)を押しながら**[DIAL]**を回して、応答したい相手局を選択し、キーを離します。
※直前に聞こえた局に応答する場合は、**[DIAL]**の操作は不要です。
※キーを離して「ピピッ」と鳴ったあと、相手局のコールサインが読みあげられます。
※コールサインを正しく受信していない場合は、「--------」を表示し、エラービープが鳴ります。
この場合は、応答できません。

応答したい相手を選択すると、矢印マークが点滅します

2. PTTを押して送信する

※**[PTT]**から指をはなすと、受信状態に戻ります。

「JM1ZLK」に応答した状態



3. 応答設定を解除する

[CLR](V/MHz CLR LOW)、**[FM/DV]**(FM/DV SCAN)、**[M/CALL]**(M/CALL S.MW)、(RX→CS)または(DR)を押すと、ワンタッチ応答設定を解除します。

1. 自分が使うレピータを設定する(FROM)

《例》"FROM"に平野430を設定する

① DR を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(DRモードを選択する)

② **上下キー**で**"FROM"**を選択し、決定キーを押します。

③ **上下キー**で**"レピータリスト"**を選択し、決定キーを押します。

④ **上下キー**で**"03:近畿"**を選択し、決定キーを押します。

⑤ **上下キー**で**"平野430"**を選択し、決定キーを押します。

「平野430」の設定が完了

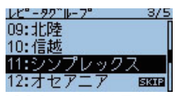
※レピータを名前で選択するだけで、そのレピータのコールサイン、周波数、デュプレックス設定、オフセット周波数が自動で設定されます。
※説明に使用しているレピータリストは、お客様の無線機にプリセットされた内容と異なる場合がありますのでご了承ください。
※自分が使うレピータの設定方法は、レピータリストからの設定以外に、下記の方法があります。詳細な操作については、電子版取扱説明書3章の「FROM」の各種設定方法をご覧ください。
- [DIAL]を回して設定
- 最寄レピータから設定
- 送信履歴から設定
- DRモードスキャンから設定

DRモードでシンプレックス通信をするには

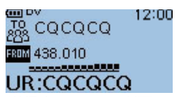
レピータリストの中にある、シンプレックス用の周波数を「FROM」に設定すると、シンプレックス通信が簡単にできます。

運用のしかた

①上記の手順①～③を選択します。
②上記の手順④で**"11:シンプレックス"**を選択します。
③**上下キー**で**周波数**を選択し、**決定キー**を押します。
④**[PTT]**を押して送信します。



「11:シンプレックス」設定



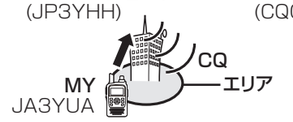
送信中のDRモード画面

2. あて先を設定する(TO)

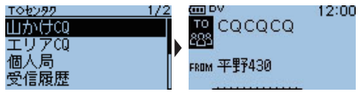
① **上下キー**で**"TO"**を選択し、決定キーを押します。

【山掛け通信の場合】

FROM：平野430レピータ (JP3YHH)　TO：山掛けCQ (CQCQCQ)



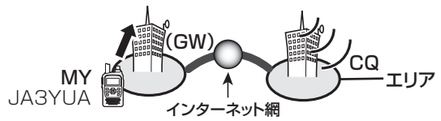
② **上下キー**で**"山かけCQ"**を選択し、決定キーを押します。



「山かけCQ」の設定が完了

【ゲートウェイ通信の場合】

FROM：平野430レピータ (JP3YHH)　TO：浜町430 (JP1YIU)



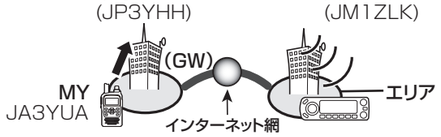
② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して**"エリアCQ"**→**"01:関東"**→**"浜町430"**を選択します。

「浜町430」のレピータは東京都にあるので、「01:関東」を選択

「エリアCQ」の設定が完了

【特定の相手局を指定する場合】

FROM：平野430レピータ (JP3YHH)　TO：山田太郎 (JM1ZLK)



② **上下キー**で選択、**決定キー**で確定、の操作を繰り返して**"個人局"**→**"山田太郎"**を選択します。

「山田太郎」のコールサインが表示されます

「山田太郎」の設定が完了

※ゲートウェイ通信で相手局を呼び出すと、その相手局が最後にアクセスしたレピータに自動で中継されますので、相手局がどこのエリアにいるかわからなくても呼び出しができます。
※相手局コールサインの登録については、電子版取扱説明書の3章の相手局コールサインの登録をご覧ください。

※あて先の設定方法は、山かけCQ、エリアCQ、個人局からの設定以外に、下記の方法があります。詳細な操作については、電子版取扱説明書3章の「TO」の各種設定方法をご覧ください。
- [DIAL]を回して設定
- 受信履歴から設定
- 送信履歴から設定
- ダイレクト入力(UR)から設定
- ダイレクト入力(RPT)から設定

3 PTTを押して送信する

送信すると下記のような表示になります。

【山掛け通信の場合】

送信すると、「TO」に設定した「CQCQCQ」をスクロール表示します

【ゲートウェイ通信の場合】

送信すると、「/」と「TO」に設定した「JP1YIU」をスクロール表示します

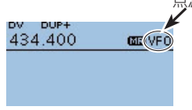
【特定の相手局を指定する場合】

送信すると、「TO」に設定した「JM1ZLK」をスクロール表示します

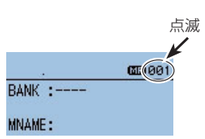
※内蔵マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。内蔵マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。
※DRモードでは、最後に使った設定を記憶します。次に交信をするときに、意図しないエリアから電波を出すことがないよう運用を終える際には、「TO」の設定を「CQCQCQ」(山掛け通信)にすることをおすすめします。
※DR を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、DRモードを解除します。

設定した内容をメモリーチャンネルに保存するには

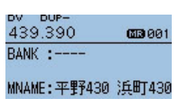
① 設定完了後、**[S.MW]** M/CALL S.MW を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押してセレクトメモリーライトの状態にします。
- DRモードに入る前に表示させていた運用モードのチャンネルが点滅して、その登録内容を表示します。
  ※キーをはなさずに押しつづけると、VFOモードに設定を書き込みますのでご注意ください。

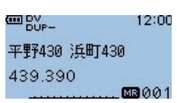


② **[DIAL]**を回して、何も登録されていないM-CHを選択します。(例**"001"**)



③ **[S.MW]** M/CALL S.MW を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を書き込み、手順①の画面に戻ります。
- 一瞬だけメモリー内容を表示します。
- DRモードで設定した「FROM」と「TO」のネームの一部が自動的にメモリーネームへ設定されます。





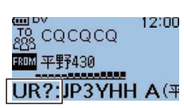
書き込み後のM-CH001の表示

ご注意
左記手順②で登録済みのチャンネルを選択すると、レピータネームが登録されませんのでご注意ください。

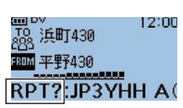
相手局から応答がなかったときの表示

UR? を表示するとき

正常に電波がレピータに届いています。
ただし、3秒以内に相手局から応答がなかったので「UR？」を表示しています。
聞いていた相手局が応答のタイミングを逃している場合もありますので、少し時間を空けてから再度呼び出してみてください。



山掛け通信で、平野430のレピータに送信し、正常に電波が届いた状態



ゲートウェイ通信で、平野430のレピータから、浜町430のレピータに送信したが、浜町430のレピータが使用中などの理由で呼び出しできない状態

RPT?またはRXと、レピータのコールサインを表示するとき

呼び出し先のレピータが使用中の場合に表示します。
ゲートウェイ通信では、呼び出し先の使用状況がわからない状態で電波を送信するので、「RPT？」が表示された場合は、少し時間を空けてから再度呼び出してみてください。

下記の原因でも、表示します。
◎自局のコールサインが未設定のとき
◎自局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録、または登録内容が異なるとき
◎相手局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録、または登録内容が異なるとき
◎呼び出し先のレピータにつながらないとき

A-6950D-3J Printed in Japan © 2011 Icom Inc.